

平成22年度 学校評価総括表(唐津市立巖木小学校)

1 学校教育目標
<p>～はずむ学校～ 『豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成』</p>

2 学校経営ビジョン
<p>〔四つのあいことば〕 1 しっかり勉強 2 元気なあいさつ 3 きそく正しい生活 4 きれいな学校 〔目指す児童像〕 1 親切で、礼儀正しい子ども(思いやり) 2 よく考える子ども(学習) 3 たくましい子ども(体力) 〔目指す職員像〕 1 よく聞き、よくほめ、信念をもって導く 2 人間性豊かで夢を語る 3 使命感に燃え創意工夫した教育活動を実践する</p>

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>① 学校経営の効果的運営 ② 校内研究会の充実並びに英語活動の研究と実践(魅力ある学校づくりの推進) ③ 心の教育(一人ひとりを大切に人権教育)の推進 ④ 特別支援教育への理解と推進</p>	<p>○学力向上に向け、校内研修会の国語科を中心に研究授業を行いながら、児童の実態にあった指導法改善に取り組んだ。また、算数科においては、全学級で週3時間以上のT Tによる指導を行ってきた。今年度は、児童の実態に合わせてT Tの時間を設定し、少人数授業にも取り組んでいきたい。また、前年度は、教育センターから講師を招き、学習状況調査結果の分析・活用の研修を行った。その研修も踏まえ、教師が授業を大切に、子ども達の学力向上につなげていきたい。 ○昨年度は、天川分校のみとなり、本校との連携が重要となった。教務や事務主事がメールや電話で連絡を取り合ったり、毎水曜日に教頭が分校へ行ったりして連携を図っていった。また、本・分校交流も計画的に行うことができた。今年度は、分校勤務初めての職員で、しかも一名減となり、本校職員が中心となり交流等を進めていく必要がある。 ○「幼保小連携」では、各学年で年1回以上の児童と園児の交流ができた。今年度は、「外国語活動」を中心とし「小中連携」を図っていかねばならない。 ○本校では「おひさま朝会」を、分校では「全校道徳」を計画的に実施し心の充実を図ってきた。今年度は、保護者や地域と協力を深め、全校児童が「楽しい」と言える学校づくりをめざしていきたい。</p>

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	学校教育目標の周知(校長・教頭)	学校教育目標を具現化した四つのあいことば「しっかり勉強」「元気なあいさつ」「きそく正しい生活」「きれいな学校」の周知を職員は100%、児童90%、保護者80%にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や生徒指導協議会等で目標を確認しながら実態把握に努める。 ・合いことばを教室や廊下に掲示をするとともに、全校朝会や学級指導等あらゆる機会を通し具体的に指導をする。 ・学校便り、育友会総会、学級懇談会、民生委員会等、家庭や地域に説明し周知を図るとともに達成に向けて協力を得る。 	A	児童の周知は、第1回目のアンケートでは91.6%で、第2回目では97.9%とほとんど周知が図られていた。保護者の周知は第1回86.4%から第2回80.6%と下がってしまったが、目標数値は、達成できた。今後は、周知だけでなく実践ができるよう取り組みを進めたい。
	教育課程	授業時数の確保(教務・廣瀬ゆ)	全学年、全ての教科等において、標準時数を100%確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期間の授業時数確認の徹底。 ・行事の精選を行い、授業時数確保に努める。 ・予定時数に照らし、週ごとに集計を行う。1ヶ月毎に、授業時数の履歴を確認・調整を行い全学年の全教科の時数確保を行う。 	B	家庭訪問時や個人懇談会時も級外で授業を行うなど、授業時数の確保に努めてきた。また、各クラスで授業集計を行いながら、調整を行っている。来年度からは、新学習指導要領完全実施に伴って各学年余時数が減ってくるので、学校行事の精選をさらに行なう必要がある。
	危機管理	危機管理体制の整備(吉原・教頭・伊藤・福山)	重大な事件、事故等0を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や職員研修等で具体的な事故等を想定しながら危機管理体制について確認する。 ・危機管理に関する避難訓練を年間5回(火災2回・水害・地震・不審者)実施する。 	A	事件・事故等0であった。年間5回の避難訓練も実施でき、不審者対応訓練では、地域安全広報隊の方にも来ていただき、昨年よりもさらに充実した訓練ができた。今後もいつおこるか分からないという危機意識を持ち、訓練や共通理解を図っていきたい。
教育活動	学力向上	T T、少人数授業等指導方法の改善・充実(北島・教務)	指導方法の改善充実を図り、計算・漢字テストで平均以上、CRTテストで各領域で全国平均を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップタイムに取り組み、国語、算数の基礎力の向上を目指す。 ・算数科を中心に全学年T T・少人数授業を実施し指導方法の改善・充実を目指す。 ・学力調査の分析を全職員で行い、改善策を練っていく。 	A	今年度は、学級の実態や単元の特性に応じて、少人数等工夫を行った。第2回唐津基礎学力テストでは、ほとんど合格であった。(C T Rテストの結果については、まだ出ていないので、後ほど挿入する)

	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動	心の教育	道徳教育の充実 (安松・吉野)	道徳の時間を中心として、道徳教育の充実を図り、道徳的心情を高め、道徳的実践力を養い、「学校が楽しい」と思える児童100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 週1回の道徳の時間や月1回のおひさま朝会（人権教室）を年間計画に基づき確実に実施する。 「心のノート」を計画的に活用する。 授業参観日に道徳の授業を全学年公開する。 読書冊数年間100冊を目指し、読書に親しみ、豊かな心を培う。 	B	年間計画に沿い、人権教室を実施することができ、意識の向上を図ることができた。しかし、まだ、「学校が楽しいと思わない」という児童が、第1回目のアンケートでは2名、第2回目のアンケートでは1名いた。さらに全員が「楽しい」と思える学校を目指していきたい。
	健康体づくり	運動習慣の改善や定着化 (松本・廣瀬け)	「のびのびタイム」など様々な場面で体力増進に取り組み、体力テスト全国平均を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動の場で、発達段階に応じた内容を考え、楽しく体力増進を達成する活動を行う。 「持久力」「柔軟性」を高めるために、「マラソン大会」や「なわとび大会」を開催し、事前の練習に力を入れる。 	B	「マラソン大会」や「なわとび大会」に加え、外遊び等で、よく体を動かし、基礎体力がつけてきている。しかし、持久力や柔軟性がまだ高いとは言えず、全職員の意識も高めながら、今後これらの力を高める運動の工夫を図っていかねばならない。
	健康体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 (小副川・北島・草場)	バランスの良い食事と朝食の摂食100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 健やかな身体を作るため、共通理解のもと、年間指導計画を立て実践を行う。 給食指導を通し、日常の食事の大切さを理解させる。必要があれば、栄養士やヘルスメイト等の外部の講師も活用し望ましい食習慣への意識を高める。 	B	自分たちでサツマイモや米作りを行い、それを使ってのお菓子作りや餅つきなど育てる苦労や収穫の喜びなどの体験を通して食の大切さを学ぶことができた。また、育友会主催の家庭教育学級でも食を取り上げてもらった。今後も、保護者と連携をさらに図っていくことが大切である。
特定課題	低学年学習環境の改善充実	幼保小連携の充実 (野口・秀島)	幼稚園・保育園との相互交流を年2回以上行い連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 保育園や幼稚園に出かけ学習したことを発表したり、保育園・幼稚園の先生方に学校にきてもらったりして交流を深める。 	B	おもちゃ祭りや昔遊び体験、餅つきなど、児童と園生の交流はできた。3学期は、授業参観等案内を出したが、今後も、学校行事等の中で、園の先生にも参観をしていただき、連携を深める機会を増やしたい。
	本・分校連携	本校・分校連携の充実 (教務・廣瀬ゆ)	職員会議や学校行事の中で合同の機会を学期に3回以上行い、職員・児童の交流を深め、連携の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 春の遠足や唐津市教育の日等の行事に関わって事前に協議を行い内容を充実していく。 全職員が1回以上分校に行き、分校と交流を図る。 本・分校同学年での交流を計画実施する。 	A	毎週水曜日は、管理職が分校に行き連携を図った。また、分校でも全校授業や研修会を行い全職員が分校に足を運ぶことができた。児童との交流でも、今年度授業交流の機会を増やしていった。今後、児童の交流の在り方等もさらに工夫していかなければならない。
	魅力ある学校	外国語活動の推進 (古賀・廣瀬ゆ)	平均月1回以上の講師招聘による研修と自主研修や打ち合わせを行い外国語活動に対する充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 年間活動計画において、児童の興味・関心のある題材を扱い、全学年を通じて外国語に段階的かつ自然に慣れ親しみ、楽しみながらコミュニケーションできる体験的な活動を取り入れる。 全校で取り組み、低学年や中学年の年間英語活動計画を作成する。 ホームページや便り等で月2回以上保護者や地域等への情報発信を行う。 	B	文部科学省から講師を招いて研究発表会を行ったり、平均月1回の講師招聘による研修会が実施でき、研鑽を深めることができた。また、アンケートからも児童も外国語活動や英語活動を楽しんでいることが分かった。ホームページや外国語便りでの情報発信も行ったが、月2回以上の目標は達成できなかった。情報発信もさらに充実していきたい。

6 総合評価

・学校運営に関しては、地域や保護者の協力もあり概ね良好である。学校目標の周知は達成できているので、今後、周知に加え、実践ができるように目標を高めていかなければならない。
 ・教育活動に関しては、指導方法改善の工夫が図られ、充実してきた。さらに、「学校が楽しい」と元気に言える児童をめざし、Q-Uテスト等を活用しながら、さらなる取り組みが必要である。
 ・特定課題に関しては、「外国語活動の推進」では、月2回以上の情報発信ができなかったが、これからは生き抜く児童にとって必要不可欠な「コミュニケーション能力」の向上に取り組むことができた。

7 来年度の改善策

・学校教育目標を具現化した4つの合い言葉の実践に向けて、いろいろな学校生活現場でできているのか、児童に自己評価を促しながら、取り組んでいきたい。
 ・食育では、授業参観等の機会を捉えながら、児童と保護者と一緒に考えたり、活動したりできる取り組みを行いたい。
 ・外国語活動の推進については、5・6年生の授業や1～4年生の課外での英語活動の他、学校生活全般で、英語を取り入れ、自然と慣れ親しめるような取り組みを行ってきたい。